

川

柳



赤堀 晶子

(六会川柳会)

生きる程不足する分加算され  
ひとり居に招きもしない詐欺電話  
取り立てより恐い高齢ドライバー  
揺れ動く心が生きる糧になり  
落ち込まぬ性格故に救われる

浅井 栄

(辻堂川柳会)

AIの進化新たな文化生む  
温暖化招かざる客押し寄せる  
役人の反省の弁聞きあきる  
社内秘を何故か社外は知っている  
平凡が一番と言う負け惜しみ

阿部 紀代

花嫁の父のメガネに水たまり  
手助けをされてわかった老いはじめ  
口喧嘩 言葉の化粧忘れてる  
み仏につながる細いクモの糸  
恋してるポチに散歩をせかされる

安部 典子

(鶴沼川柳同好会)

からしうり施設の母へ秋飾る  
断捨離を始めて過去へ小旅行  
老いという見えぬ相手にたたら踏む  
何もかもほどけた様にポチ寝入る  
迷い猫嵐の夜に宿を貸す

石川 正明

(湘南台川柳会)

がむしゃらに一球を追う球児たち

顔洗い抜けぬ眠気に二度洗う

八軒もスタバ集まる大都会

四十路前師匠ができて胸満ちる

子どもの手宇宙広がる紙粘土

石田 公男

(湘南台川柳会)

いいお酒だったと一合が笑う

老いたとて小さい夢を手で包む

柏手を打つと心も凜とする

絶景の中に私が溶けていく

お互いに耐えた顔して恙無い

板橋 美智子

川柳で脳を錆び止め光る明日

国訛り今は故郷の自慢札

おしゃべりでストレス溶かす茶をすする

苦にやむな失敗バネにでかい明日

夢舞台今が過去形なる前に

市川 嘉紀

(鶴沼川柳同好会)

幸せを皺に刻んだ五十年

陽だまりで二人余生の肩寄せる

老妻は今朝外出の紅をさす

黙々と食べる夫と五十年

老妻に病床で言うありがとう

井上 朗

(川柳こぶしの会)

線一本足して今年の阿弥陀くじ

陽炎のような景気で背が痒い

根気よく生きたもんだと手を見つめ

雑草に優しい土を手なずける

有難いことに覚めれば朝の色

岡田 仁子

(鶴沼川柳同好会)

狭い土地スマートな家建ち並ぶ

赤ちゃんがスマホで眠る子守唄

年一度消息を知る年賀状

親からの名は一生のプレゼント

見当たらぬ切符帰宅後顔を出す

小澤 敏夫

(なぎさ川柳会)

ペットには優しい声音変える妻

断捨離にやはり未練の先送り

無軌道な過去を見破る内視鏡

背伸びしたスマホへ老いが追いつけず

寄付金と善意集まるボランティア

小野 敬子

(六会川柳会)

故障でも一度たたいてみるテレビ

お駄賃が欲しい時だけ肩たたき

スリッパをふり上げゴキのあとを追う

耳遠くオレオレ詐欺と長電話

健脚のバアで散歩の犬がバテ

か  
ず

今  
日  
一

(川柳こぶしの会)

(川柳こぶしの会)

食卓は活力満たす充電器

すぐ降りる電車も前に並ぶ癖

食卓の楽な会話は消化剤

緑の葉食べて蚕は白い糸

血圧を上げる卓上醬油差し

強すぎてスマホ認識せぬなまり

食卓の減つてく椅子に有る未練

俺色に染めた女房に染められる

食卓でテレビと会話する孤食

コマーシャル取材当時は何時のこと

菊地政勝

熊田松雄

(湘南台川柳会)

(湘南台川柳会)

晩成の易を信じて生きている

朝稽古万の摺り足千の四肢

咳ひとつ妻が心配してくれる

運命のシナリオために朱を入れる

古傷に触れず夫婦が八十路行く

絹ごしの水くぐらせる手に朝日

難聴が笑いの輪から遠く居る

父の背を追って辿れば父の道

返納の免許へ痴呆忍びこむ

鵜匠から学んだ妻の綱さばき

ケ イ

島 津 富 弥

雪化粧夜は鍋でしょこんな日は

そこ君の優先席かお若いの

花粉症敵は飛ぶ付くでも見えぬ

熱々の豚汁めあて寒稽古

穩便になどは言えぬ詫びる側

沢 辺 祥 子

島 脇 信 吉

(湘南台川柳会)

(鶴沼川柳同好会)

開け閉めにイチヤモン付ける二日酔い

朽ち果てた病院が良い肝試し

おめでたの兆しか食あたりなのか

お人好しばかりが残るあと始末

コツコツと五輪を目指すヘルメット

ふる里を想い出だけにした津波

癖のある文字が伝えてくる温味

どん底で知った家族という絆

手のひらに乗るだけでいい愛の糧

シャワー全開今朝の私は新しい

出発は海から徒歩で富士登山

秋ナスをゆつくり食べる嫁の留守

転倒をお互いすなと老夫婦

忘れたい消したい過去は釈迦もある

松茸とふぐ刺し食わず死ねません

菅 沼 雅 彦

田 中 民 恵

令和時もスマホ放さずニラメッコ

友が逝き明日はわが身と空あおぐ

真夏日が続くは不快薫風時

インフルはアポもとらずにやってくる

福よ来い願いはかなう初夢を

妹 尾 安 子

(六会川柳会・鶴沼川柳同好会)

欲しいなあ正しい事を言う勇氣

相槌を打てば和んでくる相手

時々黄泉へ電話をしたくなる

材料を知って慌てて放す箸

北風よ早く下され良いニュース

アメリカの疑似餌にホゾを囓むばかり

スイッチバツク僕の一生こんなもの

左前になればパンダを借りてくる

曾孫でき百歳めどにスクワット

お茶がらの始末で今日を締めくくる

近 下

(辻堂川柳会)

御機嫌はキャベツを刻む音で知る

歳よりも若くみせよう伊達眼鏡

カタカナが飛び交う会話聞かぬふり

隠し事目敏く気付く山の神

捨ててみな！力を抜いて生きてみな！

千鶴

幡多純

(湘南台川柳会)

(湘南台川柳会)

散歩すりゃ医者要らずだと医者が言う

呆け封じ受けたお寺が浮ばない

孫が聞く笑う門つてどこの角

降圧剤飲んでも爺は威圧的

同じこと今日も聞く友話す友

中澤英夫

春水

蝶の舞 子孫繁栄忙しい

稲掛けに雀負けじとぶら下が

老夫婦線路のように睦まじい

アイウエオ腹を叩いて詩を吟ず

議員殿バツジの重さ考えて

(辻堂川柳会)

遊ぼうと言う暇もない塾通い

右目だけ極楽世界万華鏡

金要らぬよろずの神に運託す

幾たびも断捨離はばむレトロ家具

野良猫も馴染みとなれば逃げもせぬ

深野 いく生

(なぎさ川柳会)

ズボン丈縮め広げる胴回り  
筆筒にはサイズの合わぬ服が増え  
ケーキ屋の前は素通りダイエツト  
ダイエツトの効果嬉しい検査表  
年金減りスリムになって行く家計

富士子

(湘南台川柳会)

日に一句良きこと見つけ文字刻む  
やる気出せやる気出せよと我はげむ  
ほほえみはほほえみ呼んで和ませる  
輪の中を一拍遅れ我踊る  
背の曲る我が影映す坂の道

古木 光江

(鵜沼川柳同好会)

玄関でギア切り替えて鍵開ける  
食べ頃はカラスが先につまみ食い  
毎日の名も無き家事のくりかえし  
ルックスが見えぬサイトのお友達  
畦道の秋の日しみる枯れススキ

正武

(辻堂川柳会)

役人のワルサ納税意欲削ぐ  
付度に明け暮れ給与税金で  
納税は天引きやめて直払い  
負担より受益が多い年金者  
白寿迄生きて税金取り戻す

水城 茂子

(六会川柳会)

妻旅行しみじみ知った有難み  
どの方もよいお年をと年の暮  
パパの肩広くて丈夫皆背おう  
定年後時間気にせず過ごす日々  
たつぷりと貰ってみたいおこづかい

宮 塚 はじめ

(鶴沼川柳同好会)

一億を疾うに白痴化したテレビ  
チャンネルのいつもどこかで食べている  
旨そうにテレビがしゃぶるスキヤンダル  
やる気ない大人を叱る少女の目  
雨降って地固まらずに流れ出す

村田 和彦

(湘南台川柳会)

二段飛び階段上るキャリア組  
節分に鬼が寄り添う避難小屋  
雪の上選んで歩く都会っ子  
湯上りにタオル巻く妻国技館  
あゝ無情美人薄命妻元氣

村田 憲治

やあやあと手を取り合って誰だっけ  
あの人の声聞きたいと墓参り  
うそホント言った言わない記憶ない  
民の声あちらこちらで無視をされ  
この口が悪いと言いつ辞める人

森 ひろし

(六会川柳会)

異性にもてたい気持ち未だ残る  
年金のおかげで孫が肩叩く  
行列の長さで決めるラーメン屋  
この爺が立っているのに知らぬ顔  
何回も叩いても駄目居留守です

守 田 貴美子

(六会川柳会)

時計止め眠れぬ夜をやり過ごす  
バアバにはママを褒めてる反抗期  
やさしかった昭和の雨がなつかしい  
悲しみを吸いとるような青い月  
哀しみはわかち合えないものとする

八 幡 禮 子

サウンドが聴えてきそう猫ジャラシ  
プロよりも孫の介護にありがとう  
百態の風がとろりと身を包む  
ザックリと切って明日を切り開く  
有りのまま生きて笑顔の家庭の和

吉 田 節 子

(六会川柳会)

家の中姑も嫁も物忘れ  
引きこもる部屋も無かった子沢山  
どの米も豊作ですと胸を張れ  
内心は派手な色もの着てみたい  
長命に足腰とても追いつけず

吉野健司

(湘南台川柳会)

人生と重ね眺めるハスの花

短所だと自覚してればもう長所

電話すらしてないなあとまた師走

その残り全部と言って少し買う

ライバルは自分みんなが強すぎて

# 第二十回市内サークル合同句会記録

課題 「野暮」 熊田松雄 選

令和元年六月十一日

於 六会公民館

主催・運営 六会川柳会

参加人数 三十名（六サークル）

宿題（四題）各題二句詠

「野暮」 熊田 松雄 選

「招く」 浅井 栄 選

「ぼやく」 宮塚はじめ 選

「内気」 深野いく生 選

特別課題 謝選 一句詠

「舌」 小野 敬子 選

## 五 客

でしゃばりも過ぎれば友もそつぽ向き

輝夫

棧敷から椅子に腰かけ観る相撲

はじめ

何にでも直ぐつけたがる令和初

いく生

北方で野暮な議員の茶番劇

小澤敏夫

野暮でした女性に歳を聞くなんて

ひろし

## 三 才

人

金借りる訳を聞く野暮聞かぬ粋

和彦

地

新所帯長居の客が疎ましい

融

天

成金の所作に京都が目をつむる

祥子

軸

二人してどこへ行くのと野暮が聞く

松雄

課題 「招く」 浅井栄 選

五 客

山菜の季節が来たと山の声  
招かざる病い招くも人生路  
禁酒日に赤提灯が差し招く  
団子派も桜の下の宴が好き  
囃りが巢立ち促す枝の先

三 才

人

寛容が愛と平和を招き寄せ

地

母に来た介護施設の招待状

天

正義論曲げず招いた四面楚歌

軸

温暖化招かざる客大手振る

課題 「ぼやく」 宮塚はじめ 選

五 客

ノムさんを真似た演技に妻そつぽ  
先生がぼやく読めない子の名前  
目の前じゃ出来損ないと言つてない  
子供たち母の日だけは忘れない  
オーイお茶自分でやれという返事

三 才

人

溜め池のぼやきのようなメタンガス

地

引き換え日過ぎてわかった当たりくじ

天

目と鼻のスペアがほしい花粉症

軸

返納を実は車も願つてる

栄

いく生

祥子

史郎

富弥

安子

竹花敏夫

輝夫

はじめ

課題 「内気」 深野いく生 選

五 客

正論がのどでもじもじしてるまま

長男は姉妹の中でひっそりと

人の字を飲ませ背を押す初舞台

気が弱く後列端で撮る写真

内気では置いてけぼりになる時勢

三 才

人

見合いでは内気おんなに見えたのに

地

決断は妻の視線に添ってする

天

席譲り学生服の赤い顔

軸

エンディングノートで妻へ有難う

課題 「舌」 小野敬子 選

五 客

独り身にレトルトの味舌が慣れ

カタカナ語しゃれたつもりが舌を囁む

控え目な舌夫には遠慮せず

しまったとペロリと出した舌二枚

職退いて舌一枚が退化する

三 才

人

失言が乾かぬ舌でまたポロリ

地

舌先で老後資金を転がされ

天

毒舌が減って心配父の老い

軸

母の味これだこれだと舌が言う

小澤敏夫

栄

晶子

はじめ

朗

嘉紀

祥子

いく生

敬子

# 第三十三回 ふじさわ川柳大会記録

令和元年九月十四日（土）

於 藤沢市民会館

主 催 ふじさわ川柳大会実行委員会

共 催 （公財）藤沢市みらい創造財団

芸術文化事業課

後 援 藤沢市・藤沢市教育委員会

参加人数 一二〇名

宿題 「塗る」

「ルックス」

「おだてる」

「わざわざ」

「解放」

「余韻」

特別課題

「たっぷり」

辻 直子 選

五十嵐 修 選

金子美知子 選

堀井 克子 選

渡辺 貞勇 選

島田 駱舟 選

白鳥 象堂 選

お知らせ

次回の開催予定

令和二年九月二十六日（土）

場所 藤沢市民会館

宿題 塗る 辻 直子 選

五 客

残された女吐息を壁に塗る  
味噌塗って昭和が香るにぎり飯  
塗り変わるこの国が好き四季の色  
媚薬塗るわたしを好きになりなさい  
ルージュ塗り三途の旅に母送る

あやめ  
嘉枝子  
みちこ  
和子  
ひろたね

三 才

人

あやまちを修正液が目立たせる

良雄

地

紅いルージュたまに男に味見させ

かつ子

天

赤チンを勲章にした膝小僧

健司

軸

欲望の薄れた顔に紅を塗る

直子

宿題 ルックス 五十嵐修 選

五 客

虫も殺せない顔して人を喰う  
ルックスが憧れだった京マチ子  
満面の笑顔に勝るものはなし  
靴を履く眉が戦士になってくる  
イケメンは美男子という訳じゃない

せいじ  
なかば  
みちこ  
弘 楽  
あやめ

三 才

人

イケメンでない方がよい好感度

良雄

地

筋曲げぬ男が纏う楷書体

薫

天

見た目より人間力で勝負する

佳子

軸

僕になぜ男は顔じゃないと言う

修

宿題 おだてる 金子美知子 選

五 客

プライドをくすぐり何時かわたし色  
また一つ荷物背負わすほめ上手  
すねる妻料理を褒めて元の鞆  
立候補させてしまった軽い世辞  
まだ出来る自分おだてて行く余生

三 才

人

眠つてたパワーよいしよが目覚めさせ

地

脚光が駄馬を名馬に作り変え

天

出来るんだその気になった子の発芽

軸

不得手な絵ほめちぎりつつ画家にさせ

宿題 わざわざ 堀井克子 選

五 客

目の前の友にスマホでメールする  
ファックスの後から電話追いかける  
担ぎ手を町から雇う村祭り  
俺のミス子供が妻に言い付ける  
誕生日空輪で母の煮ころがし

三 才

人

戒名にルビ振るように言い遣す

地

近道をわざわざ通り犬に会い

天

廻り道避けた積りが鉢合わせ

軸

五円玉財布に集め寺社めぐり

仁子

光敬

了三

卓郎

さだお

正武

信夫

敏郎

克子

宿題 解放 渡辺貞勇 選

五 客

退院日世話になったとベット撫で  
傘ささず歩き心を解き放つ  
冤罪が晴れて眩しい空がある  
足の指が一本ずつになる湯舟  
すべてから自由になれる向こう岸

三 才

人

アラフォーを離婚届が光らせる

地

ほんとうの長さになって湯に浸る

天

赤い糸笑って解くのは女

軸

性格の不一致鎖解き放つ

宿題 余韻 島田駱舟 選

五 客

悲恋観る少しやさしい妻になり  
嫁がせて清々したと涙ぐむ  
もう一軒行きましょ雨にかこつけて  
ひと駅を歩く移り香消したさに  
お隣のアクビに余韻すいとられ

三 才

人

成功の余韻に酔ってけつまずく

地

風呂敷を解いた四隅に物語

天

炭酸の泡引き際を弁える

軸

失言の罅ワイドショーへ弾む

今日一

青窓

光敬

芳夫

新平

幸子

雪湖

芳夫

祥子

敬子

徳子

幸子

幸子

雪湖

雪湖

貞勇

貞勇

藍

珠美

芳夫

駱舟

特別課題 たつぷり 白鳥象堂 選

五 客

夕映えの穂波に風のジャズバンド  
夕焼けに貫禄が出て秋になり  
たつぷりと叱ったあとの褒め言葉  
活発な舌戦にたのもしい未来  
何もないふる里にある青い空

珠美 芳夫 痴風  
のぶし 和男

三 才

人

たつぷりの大根おろしで食うサンマ

亮子

地

電子辞書ぺろりごまんと紙を食べ

健司

天

目一杯税を掛け合う米と中

武彦

軸

うなぎ屋の前でたつぷり深呼吸

象堂

# 第三十三回ふじさわ川柳大会

## 入賞者順位

一位	青木 薫	九点
二位	菊池 良雄	九点
三位	土方 かつ子	八点
四位	伊藤 嘉枝子	八点
五位	久保田 徳子	八点
六位	丸山 芳夫	八点
七位	小室 雪湖	七点
八位	竹中 えぼし	六点
九位	青柳 さだお	六点
十位	原 新平	六点
十一位	相原 あやめ	六点
十二位	山下 ひろたね	六点
十三位	高橋 信夫	五点
十四位	山口 珠美	五点
十五位	板橋 みちこ	五点

十六位	本阿弥 光敬	五点
十七位	上原 稔	五点
十八位	沢辺 祥子	五点
十九位	小野 敬子	五点
二十位	権田 藍	五点

## 採点方法

三才………三点

五客………二点

秀作………一点

の配点での合計点で、同点の場合は受付順に順位付けする。